

留学報告書

モンタナ州立大学 秋学期

学業



どのような授業を履修したのか、具体的な課題や試験内容の2つに分けて報告する。

私はネイティブアメリカン、文学、人間開発学、フランス語の4つの授業を履修した。各3単位で、月・水・金曜日の50分コマだった。個人的には、週3回で9時から13時まで連続で授業を受け、その後の時間と火・木曜日は予習復習や課題に集中出来たので、良いスケジュールだったと思う。ネイティブアメリカンの授業は、イベントに参加したり、映画を観て小レポートを提出すると、エクストラクレジットが貰えた。文学は月・水曜が大教室で教授が行う講義、金曜はTA (Teaching Assistant) による15人くらいのディスカッションクラスだった。金曜のクラスは雑談ベースで、小説や詩について理解を深める良い機会だったし、TAが焼いてきたクッキーを食べながら話をするくらい自由度の高い授業が新鮮で楽しかった。

課題について。ネイティブアメリカン、文学はクイズが少ない分、事前のリーディングがとても多かった。平均30ページくらいを2日後の授業までに読まなくてはならなかったもので、かなり大変だったが、中京と違って学期始めに配布される授業スケジュールにいつまでに何を読むのかが全て載っている所以で時間の管理はしやすい。人間開発学とフランス語は毎週のクイズがあったが、コツコツ頑張れば授業点は簡単に取やすい。面白かったのは人間開発学の架空の子育てをする課題。学んだ知識を使って、色々な選択をし、子供を高校卒業まで育てた。また、文学の小グループでポッドキャストを撮る課題も楽しかった。どの科目も中間、期末合わせて3、4回の試験があったが、教授がスタディーガイドを用意してくれることが多く、とても助かった。

大学生活

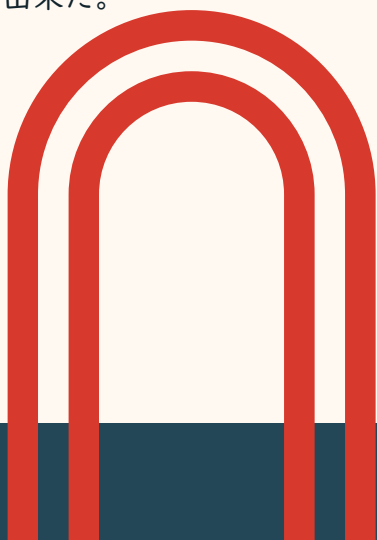


カナダとの国境を持つモンタナ州。夏は涼しく、冬は厳しい寒さになる北アメリカに位置する。他の州と比較しても治安が良く、キャンパスからは山が見える。近くには多くの国立公園があり、ハイキングやウィンタースポーツが好きな人におすすめだ。

オンキャンパスの寮は毎回入るために学生証のスキャンが必要で、フロントに24時間学生スタッフがいる。何かあったときにはFA (Floor Assistant) にも頼りやすい環境だった。ルームメイトと2人で住んでいたが、近すぎず遠すぎない関係性だった。ただ、やはりよく知らない人と生活するのは中々大変で、誰でも不満は必ず出てくると思う。食事は朝昼晩ダイニングホールで食べる。ビュッフェ形式で、アメリカン、イタリアン、アジアン、ベジタリアンなど色々ある。カフェも併設されており、いつでもコーヒーが飲めるのが良かった。

友人のほとんどは同じ交換留学生だった。一緒にご飯を食べ、夜は寮のロビーで卓球やビリヤードをした。色んな国の友達が出来るので、色んな価値観を知ることが出来た。授業繋がり友達と言えるのは現地出身の1人だけ。他の留学生の話聞いてもアメリカ人の友達を作るのは難しく感じた。留学生同士の繋がり是非常に大事なもので、積極的にイベントに参加したり見かけた時に話したりして関係を築いた。また、カトリックで地域住民の留学生を支援しているグループがあり、彼らが企画するイベントに参加することで、留学生以外の繋がりも出来た。おかげで困ったときに頼れる大人や同世代のアメリカ人の友達が出来たので安心感があって、ホームに感じる事が出来た。

旅行はモンタナ州外に2度行くことが出来た。10月には友人と2人で二泊三日のシアトルへ。Thanksgivingの1週間休暇には、ロサンゼルスへ。モンタナ州とは全く違うアメリカの都会の雰囲気を感じられた。





まとめ

留学前、1セメスターは長いと思っていた。しかし、今留学を終えて、この約4ヶ月はとても短く感じた。何度も自分の英語の出来なさに落ち込んだが、友達と楽しい時間を過ごした時、教授に褒められた時、咄嗟に言いたいことを口に出来た時に自分の成長を感じた。毎日新たな発見がある環境で学べたのは、本当に幸せだったし、今後の自分にとっても確実にプラスになると思う。色んな価値観を吸収することで、より他人に寛容になることが出来た。また、良い意味でも悪い意味でも、どんな環境でも変わらない自分らしさにも気づけた。自分のメンタルのコントロール方法や、人との接し方、課題への取り組み方を客観的に見る事が出来たと思う。今後、交換留学に挑戦する方には、ぜひ時間は有限だという意識を常に持って、やるべきことをしっかりこなしつつ、新しい友人たちと思いっきり楽しい時間を過ごして欲しい。

